

# 西街区開発「地下水影響なし」

## 三島駅南口

### 追加調査、市が報告書

シティーホテルの建設構想がある三島駅南口西街区について、三島市は31日までに地質調査を行い、建設工事による地下水への影響がないことを裏付ける結果を報告書にまとめた。関係者への取材で分かった。

1995年に専門家らが「影響は小さい」と結論付けた地下水等環境影響調査の実質的な追加調査。今回作成した報告書は具体的な文言は盛り込まず検査の客観的データのみを掲載したが、当時の調査結果を改めて立証する内容となった。

調査は沼津市の専門業者に委託し、6月17日～8月18日に新たに5地点での機械ボーリングと表面波探査を行った。地盤は地表面から比較的すくみの深さから少なくとも厚さ12～14メートルの溶岩で、地下水はさらにその下部を流れていると確認した。

地盤が強固であることと建物建設時にくいを打たずに済む「直接基礎」が可能になり、地下水の流動を阻害したり、地下水を汚染したりする恐れは小さいという。

三島駅南口西街区の開発構想は現在市土地開発公社所有の土地0・34畝を民間業者に売却した上で整備する。今回の地質調査費用826万円は土地売却価格約4億6588万円に上乗せする。最低売却価格とする。

シティーホテルは市が駅周辺全体構想(グランドデザイン)に描いた広域観光交流拠点の核施設。買い物や食事、情報発信の機能も持たせ、2020年東京五輪前の開業を目指す。現在、事業者を公募している。

(三島支局・河村英之)

調査は沼津市の専門業者に委託し、6月17日～8月18日に新たに5地点での機械ボーリングと表面波探査を行った。地盤は地表面から比較的すくみの深さから少なくとも厚さ12～14メートルの溶岩で、地下水はさらにその下部を流れていると確認した。